

SOSの出し方に関する授業 学習指導案 (高等学校)

- 1 **ねらい** : 相談に対する心理的抵抗や自分自身の援助希求行動の傾向を理解することをとおして、必要な時には相談するとよいことが理解する。
人には相談できる力が必要であることを、交流活動をとおして理解し、支え合って生きることの大切さを理解する。
- 2 **使用教材** : 「相談する力を高めよう」(DVD又はスライド資料)
ワークシート「Aさん、勇気を出して相談してみない?」
- 3 **評価規準** : 自分自身の援助希求行動の傾向について理解を深めることができた。
人には相談できる力が必要であることを理解できた。
- 4 **本時の流れ** : 50分

時間	学習活動	指導上の留意点等
導入 3分	<p>1 本時の流れを確認する。</p> <p>学習課題 相談することの大切さ、自分自身の傾向について考えよう</p> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ワークシート① 2 前半の動画を観る 3 ワークシート② 4 後半の動画を観る 5 ワークシート③ 6 まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題と流れを掲示しておく。 ・机を合わせてグループにする(しておく)。 a 普段の生徒を見て心配していること等から興味・関心を高める。 b 心身の不調を抱えているなど配慮を必要とする生徒がいる場合、授業中につらくなった時はサブティーチャーへ申し出ること(別室で休む等)をあらかじめ伝えておく。
展開1 10分	<p>2 ワークシート①</p> <p>① Aさんが相談できないのはどうしてでしょう?</p> <p>相談に対する心理的抵抗について話し合う。</p> <p>c 記入する(個人で考える)</p> <p>d グループ3~4人で話し合う</p> <p>e 学級で共有する(発表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート上部の枠内の文章を読み上げる。 ・グループでの話し合い、学級での共有の場面では他者の意見を否定せずに聞くよう指示する。 f 活動の終わりに、相談に対する心理的抵抗は多くの人が同じようにもっていることを話す。
展開2 5分	<p>3 前半の動画を観る。 (又はスライド前半の話聞く。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サブティーチャーがDVDを再生する。(又はスライドを使い原稿を読み上げる) ・メインティーチャーは生徒の様子に心配な反応がないか観察する。泣き出す等の心配な様子が見られた生徒には声を掛ける。

例 a	「普段の皆さんを見ていると、本当によく頑張っていると思います。その分、悩んでいることが多いのかもしれないと心配することがあります。皆さんは悩んだときはどうしますか?誰かに相談するということがありますよね。今日は相談することや支え合うことの大切さについて考えていきます。」
例 b	「相談について考えていくので、自分の辛い体験などを思い出したりする人もいるかもしれません。体調不良などで辛くなった時は、遠慮しないで〇〇先生(サブティーチャー)に言ってください。」
例 c	「Aさんの気持ちを想像して2分間で書いてください。できれば3つ、難しいと感じる人も1~2つ書いてみましょう。始めてください。(約2~3分間)」
例 d	「グループ内で発表します。(順番を決める)時計回りで一人1つずつ発表していきます。2周目、3周目と進んでください。書いたものを全て発表した人は、『もうないです』と言ってパスしてください。また、他の人の話を聞く時には、どんな意見も否定せず、相手のことを見て、うなずきながらよく聞いてください。時間は1分半です。始めてください。(約1分30秒間)」
例 e	<p>「発表してもらいます。各グループ1つずつ発表してください。(全グループ)」</p> <p>「うんうん、〇〇〇〇(生徒の発表を繰り返す)」</p> <p>「なるほど、そう考えることもありそうですね。(肯定的な言葉を返す)」</p> <p>「拍手しましょう。(発表者への拍手を促す)」</p> <p>「もう1つ発表したいグループはありますか?(自主的な発言を促す)」</p>
例 f	「発表を聞かせてもらい、共感できるものばかりだったと思います。確かにそう考えたら相談しづらいですね。皆さんはどう感じたでしょうか?“誰でも相談するのは不安だったり、怖かったりするんだな”と思った人も多かったかもしれません。」

時間	学習活動	指導上の留意点等
展開3 12分	4 ワークシート② ② Aさんが相談したら、どんな良いことがあるでしょうか？ 相談することの良さについて話し合う。 g 記入する（個人で考える） h グループ3～4人で話し合う i 学級で共有する（発表）	j 活動の終わりに、良いことが書けなかった生徒へのフォローを行う。（「発表を聞いて良いと思ったものを記入してもよい」と伝えるなど）
展開4 9分	5 後半の動画を観る。 （又はスライド後半の話を書く。）	・前半の動画と同様 （スライドを読み上げる場合は、音楽「言葉にできたら」（DVDの最後に収録されているもの）をスライド後に再生する。）
展開5 5分	6 ワークシート③ ③ あなただったら、悩んでいる時、誰に相談できそうですか？ その理由も書いてみましょう。 自分自身の相談に対する傾向を考える。 ・記入する（個人で考える）	・机の配置を正面向きへ戻す。（他者からのぞき見されないため） k 発表がないことを生徒に伝え、安心して取り組めるようにする。 <u>話し合いや共有は行わない。</u>
まとめ 6分	7 メインティーチャー、サブティーチャー等から ・教師が考える“相談することの必要性” ・教師、SC等にも相談してほしい等の話を聞く。	1 教師、スクールカウンセラー（SC）等に相談してみようと思える内容と話し方を心掛ける。 ・電話相談や外部相談機関のリスト等を配付して説明する等の工夫をする。 ・ワークシートは裏返して回収し、授業後に全員分の記述を確認する。 ・アンケートは生徒の実態に合わせて、別の時間または自宅記入の形式で実施する。教室で実施する場合は、落ち着いた雰囲気、のぞき見等がない環境で行う必要がある。また、 <u>アンケート等を回収した場合は、必ず回収日のうちに内容を確認し、SOSの声が書かれているか確認する。</u>

例 g	「相談相手は親しい友だちや家族、先生などを想像して考えてみましょう。2分間で書いてください。」（約2～3分間）
例 h	「グループ内で発表します。時間は4分間です。先ほどと同じように行ってください。また、発表が終わったグループは、他の人の発表を聞いた感想を話し合ってください。」 ※必要に応じて、話の聴き方について再度指導する。（約4分間）
例 i	「発表してもらいます。各グループ1つずつ発表してください。（全グループ）」 「〇〇〇〇、良い意見ですね。（生徒の発表を繰り返し、肯定的な言葉を返す）」 「そうしてもらえると嬉しいですよね。（共感的な言葉を返す）」 「拍手しましょう。（発表者への拍手を促す）」 「もう1つ発表したいグループはありますか？（自主的な発言を促す）」
例 j	「思い浮かず書けなかった人もいたかもしれません。過去に、相談しても上手く受け止めてもらえなかったなどの経験がある人にとっては難しいことだと思います。そのような人も、今日は他の人から聞いたことを、今後の参考にしてもらえればと思います。」

例 k	「この③はグループでの話し合いなどを行いません。自分自身のこととして考えてみてください。時間は5分間です。始めてください。」（約5分間）
-----	--

例 l	「皆さんのことを見て、元気がない時には声を掛けるようにしています。でも、気づくことができない時も残念ながらあります。ぜひ、困った時には自分から声を出してください。例えば、友人関係で・・・」 「相談は面談期間以外でもいいです。また、別の学級の担任でも遠慮しなくて大丈夫です。他にも、学校には教育相談担当の先生もいて、〇〇先生が・・・」 「スクールカウンセラーに相談したい時は、担任や保健室の〇〇先生に申し込んでください。悩みの内容まで無理に言う必要はありませんので、安心して申し込んでください。」 「悩んでいることがある人は本当に相談してほしいと思います。希望する人はアンケートの記述欄に“相談したいことがある”と記入しておいてください。」
-----	--